

学校教育目標	「光の子・力の子」 ～自分の輝きを見つけ、自分の力を発揮し友とまちと共に生きていく子～ ○基礎・基本を大切に、学ぶ楽しさを感じて、共に学び合う子を育てます。(知) ○自他のよさを見つけ、礼儀や規律を重んじて自分も友も大切に育てます。(徳) ○健康や安全の大切さに気づき、心身ともに健やかな子を育てます。(体) ○地域を愛し、社会の一員として自分で考え行動できる子を育てます。(公) ○様々なかかわりやコミュニケーションを通して、視野を広げていく子を育てます。(開)				
	創立 56 周年 児童生徒数: 316 人	学校長 菅原 和子 主な関係校: 泉が丘中 下和泉小 伊勢山小	副校長 青島 大受	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	泉が丘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<コミュニケーション力> <協働して課題解決する力>	○泉が丘中 ○下和泉小 ○伊勢山小	進んで人や地域と関わり、自他のよさに気付ける子ども これまでの学びをこれからの学びに生かしていくことができる子 ○研究討議を伴う合同授業研究会実施による小中の指導の一貫性の確認 ○児童生徒交流日における授業参観や部活動体験の実施 ○教務主任会やブロック専任会でのカリキュラム編成の在り方や児童生徒の諸問題の共有

中期取組目標	○保護者、地域、教職員全員が互いに学び合い、協力し合いながら、子どもたちの健やかな成長を育む学校にします。 ・誰もが分かる楽しい授業づくりを目指し、一人ひとりが自分の考えを表現しながら学力を向上させるようにします。 ・子どもたち一人ひとりが自ら進んで明るく元気にあいさつのできる学校をつくるようにします。 ・相手の心や立場に寄りそう思いやりの心をもった子の育成を目指し、一人ひとりが大切にされる学校をつくります。 ・小規模校のよさを生かし、縦割り交流を積極的に進め、自尊心や自己肯定感を高めるようにします。 ・保護者や地域社会との連携を図り、地域に根ざした体験活動を重視することを通して、豊かな心情を育てます。
---------------	--

重点取組分野	具体的取組
知	①重点研究のテーマは今年度も継続する。昨年度の研究を通じてスキルアップした事柄をさらに磨き、児童の学習にテーマで掲げた姿が現れることを目指す。②漢字、計算のスキルアップや広範囲の知識を拡げるため、朝1Mの読書タイムやスキルタイムの時間を設定する。
徳	①縦割り活動は年間行事予定との関連を図りながら意図的計画的に入れていく。並行して将来の児童数増に伴う縦割り活動の在り方について検証をしていく。②まち探検や近隣保育園や幼稚園との交流、畑や稲作活動など、地域の人や園児と関わる活動を意図的計画的に設けていく。
体	①体力アップ大作戦、ランニング大会等の体力向上を図る取組を計画する。②企画、保健、給食の児童の委員会組織を活用して、児童が健康や保健安全面に関心を持ち、主体的に活動に取り組めるようにする。学校保健委員会も全校児童がかかわるような取組を計画する。
公	①地域の農家より水田や畑を借り、稲作やサツマイモ栽培を通じ、生産者の思いや願いを理解したり収穫への感謝の心情を育成したりする。②学区内美化活動として四ツ谷町内会と連携して、四ツ谷遊水地に設置された花壇の整備や和泉川沿いの遊歩道に掲示する河川美化に関わるポスター作りを行う。
いじめへの対応	①年2回のYーP、いじめに関するアンケート、担任とのお話タイムの実施を通じ悩みを相談しやすい教職員との関係づくりに努め、早期把握を目指す。②月1回全職員参加のいじめ防止対策委員会を開き、専任を核とした記録整理と情報共有に努め、保護者、関係機関との連携を深め組織的に指導にあたる。
人材育成・組織運営(働き方)	①運営組織を月1回開催の三部会制とし、学年・ブロック研の時間確保と教材研究による授業力向上や要配慮児童の児童理解を深める取組を充実させる。②メンターチームを組織し、学級経営や授業の力量を高めるように研究・研修を行う。③グループウェア、電子申請システムの活用を推進し、業務の効率化を図る。
児童指導	①児童支援専任を中心に児童支援や特別支援教育に積極的に取り組む。また、いじめ防止対策委員会で児童の状況を共通理解し、児童理解に努める。②「一人で抱え込まない、一人で背負い込まない」を合い言葉に常に情報を共有し、学校全体チームとして児童指導にあたるようにする。
特別支援教育	①不登校や登校渋りなど心に不安のある児童には、落ち着ける別室を設け安定化に努める。また、保護者や本人と合意の上、取り出し指導やTTによる学習支援を行う。所属級へ戻ることを最終目標とする。②個別支援級と一般級の子どものための交流を児童の実態に応じて進めていく。
担当	b9
担当	b10
担当	